

## 長崎県五島市沖における協議会（第1回）

### ○日時

令和元年10月10日（木）10時00分～11時30分

### ○場所

長崎県五島市 観光ビルはたなか エクラタン

### ○参加者

経済産業省 清水課長、国土交通省 押切特定離島港湾利用調整官、長崎県 三上政策監、農林水産省 富樫計画官、五島市 吉谷副市長、五島ふくえ漁業協同組合 熊川組合長、五島漁業協同組合 草野組合長、奈留町漁業協同組合 大久保組合長、長崎県旋網漁業協同組合 柳村専務理事、長崎県旅客船協会 木口副会長、NTTワールドエンジニアリングマリン株式会社 田島氏、長崎総合科学大学 池上学長、東京海洋大学 松山名誉教授

### ○議題

- (1) 本協議会の運営について
- (2) 説明・意見交換

### ○議事概要

- (1) 本協議会の運営について

- 事務局より協議会運営規程（案）を説明し、承認された。
- 構成員による推挙及び座長からの指名により、座長を池上構成員、副座長を松山構成員と選任された。

- (2) 説明・意見交換

- 事務局より資料4について説明。

### 五島市

- 五島市では、地域資源を生かした地方創生の主な事業として「世界遺産」、「マグロ養殖の基地化」、「ツバキ」及び「海洋再生可能エネルギー」に取り組んでいる。
- 五島市の地域資源である再生エネルギーだが、すでに関連企業が9社、七十数名の雇用が発生している。地域資源の風を最大限生かし、漁業と共生しながら再エネを活用した島づくりを進めたい。
- 系統の空容量は小さい。将来的には系統について国のご配慮をお願いしたいと考えている。

### 五島ふくえ漁業協同組合

- 環境省の実証事業を受け、すでに1基の洋上風車を設置している。先ほど、説明があったとおり、漁協の立場としては、事業者と漁業とが共存共栄できないと漁業関係者を説得することはできない。
- 洋上風力に期待しているのは、風車が設置されると、実証機では水深70mだが、この水深になると普通の魚礁とは異なり、いろいろな水深に各種の魚が集まってくるので何基でも作ってほしいという意見もある。まずは風車を10基つくり、魚礁を設置し、海洋牧場にして、漁業をやりたいという若い人が少しでも増えるような日本のモデルになりたい。行政と力を合わせ取り組んでいきたいと考える。
- 事業者と漁業者との信頼関係が非常に重要。

### 奈留町漁業協同組合

- 先ほどの五島ふくえ漁業協同組合の意見のとおりで、共存共栄が大前提である。気になっているのは、集魚効果があるので、現在の五島は磯釣りがメインだが、船釣りの遊漁船が風車の方に来るようになったら、漁業者とのトラブルが発生する可能性がある。ルール化の検討が必要と考える。

### 国土交通省

- 促進区域の指定に関しては現状で問題がないが、今後風車の近くで遊漁船が増えるという新しい動きを考えると、今後ルール作りをしっかりと検討していきたい。

### 池上座長

- 柗島沖における実証事業では、風車から半径400mは漁業をご遠慮いただくこととしていたが、魚礁効果があるといって、地元以外の漁協の方が入ってきたことがあった。

### 長崎県旋網漁業協同組合

- 風車の魚礁効果により魚が集まる集魚効果があると思うが、旋網の特徴から言うと、海面に構築物ができると夜間の操業が難しくなる。一度に網を旋く範囲は直径1kmを超えることもあり、沢山風車ができると、その場所に魚がいても操業はできない。具体的に事業化される際に、発電事業者と旋網漁業者がどれだけ理解・協調できるかが課題である。
- 当該海域では現在は操業していないと思われるが、大中型まき網漁船が入って来る可能性はある。当組合としては、協調できるところは協調するスタンスであるので、細やかな情報共有と意見の吸い上げをお願いする。

## 長崎県旅客船協会

- 資料5の航跡図には記入されていないが、既存のケーブル部分には黄島海運の航路がある。但し、現時点では支障はないとのことであった。また、今後ウィンドファーム化されても問題はないとのことであった。
- 地域活性化、雇用の為、洋上風力の役割は大きい。発電事業の地元理解を進めるためには、地元への経済効果や魚が増えることを見える形で示していただきたい。
- 事業者だけではこのような目的は達成できないと思うので、占用海域だけではなく、付近の漁業者との共存共生も併せて考えてほしい。風車のメンテナンスや魚礁効果は五島だけの問題ではなく大きなテーマだと考えている。
- 温暖化対策としてエネルギーミックスにおける再エネ比率を、現在の22～24%より高め、国の施策に反映させてほしい。

## 池上座長

- 漁業関係者からは前向きのご意見が多い。これまで10年にわたって培ってきた信頼関係が根本にある。それがあるので、前向きで積極的な意見が多いのだと考える。

## NTTワールドエンジニアリングマリン株式会社

- 区域内にNTTの海底通信ケーブルがあるが、漁協と協調して管理している。洋上風力については、既存ケーブルに配慮をいただければ信頼関係で進めたいと考えている。
- ルールとしては、風車が倒壊した場合に通信ケーブルに被害がでないよう、離隔等の一般的な基準を満たしてもらえれば問題はないと思う。
- 座標がないと正確なことは言えないが、NTTのケーブルが通っている部分の占用についても協議させてほしい。

## 経済産業省

- 今後の協議会で、座標、離隔距離の件も含め、県と相談し準備していききたい。

## 農林水産省

- 協議会で漁業影響調査の実施、方法、漁業との協調のあり方について協議をすることとなっているので、丁寧な検討をしてほしい。実証機もあるので洋上風力に対する理解が進んでいると感じる。
- 制度への理解を含めて、県、国で漁業者への勉強会を開催してはどうか。

## 長崎県

- 県としても海洋を中心に再エネ事業による地域の活性化を進めたいと考えている。
- 洋上風力については、マネージメントや人材育成が重要で、欧州でもそのような拠点があると聞いている。洋上風力の導入を進めるに当たっては、既存利用者の合意や信頼関係を構築してきた。ここまでの関係も一朝一夕でできたわけではない。勉強会を通じ、関係者の理解を深めたいと考えている。

## 松山副座長

- ご意見を伺い、皆さんの理解が非常に進んでいることを感じた。
- 他の地域に比べても五島は理解が進んでいると感じる。日本における洋上風力発電のモデルになって欲しい。
- 漁業協調をどうクリアするかを考えなければならない。資料を集めることなど、できることは是非協力したい。

## 池上座長

- 10年の積み重ねの結果であり、勉強会等を通じ、更に漁業との協調のあり方を進めたい。協議会と並行して詳細調査がすすんでいると思うが状況はどうか。

## 国土交通省

- 国では、風況、海底地盤の調査を行っている。海底地盤については、地形、地層、地質を把握するため、音波探査とサンプリングを来週から始める予定である。

## 経済産業省

- 資料にもあるように風況の概況は既に把握している。詳細なデータについては環境省の既存データも含め確認していきたい。

## 池上座長

- 今後の進め方はどうなるか。どのようなスピード感で進めるのか。
- 五島をモデル地区にしたいと考えている。

## 経済産業省

- 今回の指摘事項を受け、次回以降で回答を行う。共存共栄は大原則の一つと考える。

- 効率的でかつ地元と共生するものを、という気持ちで取り組みたい。なお、協議会の場以外でもきめ細やかなコミュニケーションを図りつつ、たたき台を準備しつつ、進めさせていただきたい。
- ご議論を踏まえ、一刻も早く、例えば1か月後、11月中に第二回をと考えている。
- 協議会の議論へのご協力をよろしくお願いしたい。

以上